

[抄録様式]

<p>財団法人8020推進財団</p> <p>平成20年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名： 老人施設ディサービス利用者への口腔機能向上プログラムの取り組み</p>
<p>2. 申請者名： 社団法人越谷市歯科医師会 会長 安井晃 担当 地域医療産業歯科部長 栗田 修身</p>
<p>3. 実施組織： 社団法人越谷市歯科医師会</p>
<p>4. 事業の概要：本事業は「口腔機能向上」について、ディサービス利用者、ご家族、多職種に周知し理解していただき連携構築を行うことが重要な目的である。老人施設のディサービス利用者の日常の口腔ケアへの意識を高め、セルフケアを習慣的に身につけることにより、口腔機能の低下を防止し、楽しく、美味しく、安全な食事への支援をおこなう。対象者は越谷市内の介護保険複合施設通所介護事業所のディサービス利用者で要支援Ⅰ、Ⅱの通所者15名（男性6名、女性9名）とする。施設や利用者への事前説明、アンケートを行いご本人の同意を得て、約3ヶ月の期間に事前事後アセスメントを含む6回の口腔機能向上プログラムに取り組む。</p>
<p>5. 事業の内容：・老人施設ディサービス利用者を対象（要支援Ⅰ・Ⅱ）とし口腔機能に関する事前調査の上、ケアマネージャーと連携をとりながら対象者を選定。歯科医師、歯科衛生士が中心となり、利用者、ご家族、施設職員である看護師、相談員、ケアマネージャー、介護ヘルパー、に対し事前説明を行い、「口腔機能向上プログラム」について理解し継続実行できるよう働きかけた。6回のプログラムを「お口健康教室」と称し、事前アセスメント後、毎回テーマを決め口腔ケアや口腔リハビリテーション等を提供した。集団活動と合わせ身体状況を考慮しながら個々の利用者に適したアプローチを具体的におこなった。更に介護予防運動指導員と連携協力のもと口腔プログラムと併用をして、歌や音楽に合わせた全身機能トレーニングを実践、日常のセルフケアに楽しく取り組めるよう工夫した。プログラム終了後は口腔ケアについて個別指導を行い個々の目標を掲げ、継続実践できるよう目指した。</p>
<p>6. 実施後の評価（今後の課題）：今回対象としたのは要支援Ⅰ・Ⅱの通所施設利用者であり、身体機能状況、精神心理状況、社会環境状況等様々である。したがって口腔ケアを習慣的に実践継続し口腔機能の維持向上を目指すには支える家族、施設職員の連携協力は不可欠である。連携構築に当たり、十分な事前説明を繰り返し行うことにより利用者、ご家族の口腔ケアに対する意識の改善がみられた。同時に多職種に関しても口腔ケアの知識の向上により各々に理解と協力を得ることができた。個人に対するプログラムでは個々の状況に適したアプローチを行ない、集団プログラムでは楽しく取り組むことができるよう教室環境を工夫した。以上のことにより、老人施設ディサービス利用者に対して口腔機能向上実践に向けての認識を深めさせることができた。今後、利用者が日常のセルフケアを習慣的に身につけるためには、歯科専門職が継続的に施設に介入しご本人、施設職員、ご家族と連携構築を図っていくことが必要であろう。</p>